

平成26年度 森と湖に親しむ旬間イベント **小渋ダム開放DAY** 開催状況

国土交通省及び林野庁では、昭和62年度から、国民の皆さんに森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までが「森と湖に親しむ旬間」と定めています。

この期間中に小渋ダムでは、特別に施設内を自由に歩き回ることでできるイベント「小渋ダム開放DAY」を開催しました。

【イベント概要等】

- 日時 平成26年7月21日（月）
- 場所 小渋ダム
- 参加人数 221人（受付数）
- 内容 一般の来場者が自由にダムを歩き回り、見学できるように堤体監査廊、歩廊、土砂バイパストンネルを開放。
防災関係のパネルの展示及びビデオの放映。



続々と訪れる見学者



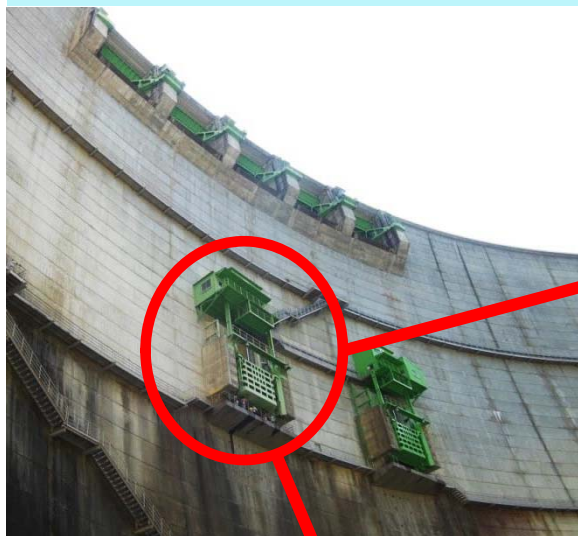
堤頂から真下を望む



パネル展示

平成 26 年度
森と湖に親しむ旬間イベント

小波ダム開放DAY 開催状況



平成 26 年度
森と湖に親しむ旬間イベント

小渋ダム開放DAY 開催状況



副ダム右岸



土砂バイパストネル吐口



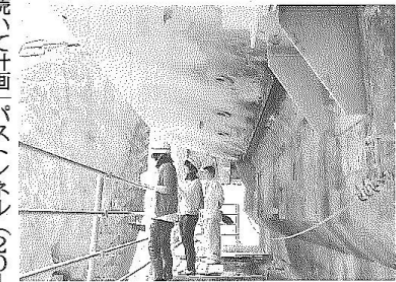
土砂バイパストネル内部

平成26年7月22日 長野日報

**放流口ゲート間近で
小渋ダムで関連施設公開**

森と湖に親しむ旬間(21、31日)初日の21日、国土交通省大管川ダム統合管理事務所(中川村大草)は「小渋ダム開放DAY」として小渋川の小渋ダムと関連施設を公開した。約200人が来場し、ダム内部の最深部やダム壁面の点検歩廊、放流口のゲートを間近で見学。洪水調節やかんがい、水力発電に役立つ巨大

ダムの構造を知った。ダム的重要性を伝え、見学を親子のふれあいの場、子どもたちの自由研究の題材に活用してもらおうと、同事務所が昨年に続いて計画した。ダム本体のほか、堆砂対策で建設している土砂バイ



ダム中央部の放水口真下から下流を見下ろす見学者

アンケートに協力して頂いた方へ特製絵はがき(2枚組)のプレゼントを実施。



親子でダム散策する姿も目立った。下伊那郡阿智村の男子中学生(12)は、小学5年の夏以来の2度目の小渋ダム見学。前回は全景を見ただけだったといい、「コンクリートの壁の裏側がどうなっているのか分かった」と満足そうだった。

ダム本体中央部にある放流口「コンジットゲート」の真下に立った見学者は、担当者から「ゲートを開けると、25メートルが1秒で満水になるほどの水が放流されると聞いてびっくり。大きなゲートに触れて、頑丈さを確認していた。」(倉田高志)